

三高新时代への胎動

地域でつなぐキャリア教育モデル事業実践校

(平成25~27年度、県教委指定)

上記のモデル事業実践校としての県教委の指定は3年間で終了しますが、本校のキャリア教育へのご理解とご協力を引き続きお願い申し上げます。



MITOYA

島根三刀屋
県立高校

蒼雲

学校だより
第105号

【発行所】
三刀屋高等学校
〒690-2404
雲南市三刀屋町
三刀屋912-2
TEL: 0854-45-2721
FAX: 0854-45-5630

【印刷所】
有限会社木次印刷
〒699-1312
雲南市木次町山方
630-5
TEL: 0854-42-8133
FAX: 0854-42-8155



おめでとうございます

入学予定の皆さん



地域とともに

シリーズ

雲南市創作市民演劇第6弾 脚本・演出/亀尾佳宏(三刀屋高校掛合分校教諭) 第19回三高生「KOMACHI~こまち~」に出演

この町に残りたい人がある/この町を離れたい人がある/この町へ帰りたい人がある

「この町を愛するすべての人へ贈る物語」

卒業シーズン、桜祭りを前にご覧いただきました(主役は三高生/瀧尻遥香さん)



「桜」と「和歌」を盛り込んで 雲南の匂い薫る舞台に!

今年で7年目(6作品目)となる雲南市創作市民演劇「KOMACHI~こまち~」が今月12日(土)、13日(日)の両日、雲南市木次町のチェリヴァホールで計3回上演され、いずれも会場は熱心なファンで埋まった。
5歳から70歳までのキャスト50名、スタッフ20名に交じって本校生2名も舞台で熱演し、Wキャストとなった主役の男

▼主役を演じた瀧尻さんのことば
雲南を愛し、演劇を愛する方々と一緒に舞台を創り上げることができて本当に幸せでした。舞台は決して一人の力では完成しません。小さな力が集まって満開の桜を咲かせることができました。自分のふるさとについて何かを感じていただけると嬉しくなればと思います。

【あらすじ】
この町に暮らす小野マチコは高校3年生。地元で就職し、これからの町で生きていこうと思っている。彼女が所属する市民劇団では、脚本ができないことに参加者の不満が爆発し、マチコは、百人一首を題材にしたお芝居を創ることを提案しようと試みる。

その頃、町に一軒しかない本屋であるフジワラ書店では、跡取り息子のコウヘイが家を継がずに進学して都会に出たいと言いつつ出たことから騒動となる。
市民劇は上演されるのか、コウヘイは町を出ていくのか。それぞれの想いが絡み合いながら、今年もこの町に桜の季節がやってくる。

女のうち、2回の公演で主役のマチコ役を演じたのが瀧尻遥香さん(2年)。昨年10月に稽古がスタートして以来、週末以外にも練習を重ねて本番を迎えた。
コンクールを目指す演劇とは異なり、地元雲南市の匂いをふんだんに盛り込んだストーリーは市民演劇ならではの舞台を創り上げ、ネット上には「こんなに大勢が長い時間舞台の上にお芝居があったかな...」と思うくらい、メンバーみんな舞台上の時間が長い!いつも群衆が出ている感じですね。それでいて、ゴチャつとした感じに見えないのはすごいなと感じます。一人一人がしっかり生きています。今回の舞台。「ああ、亀尾先生の舞台だ...言葉が幾重にも掛けられて、シリアスとギャグがシームレスで、ギャグシーンも重要な伏線で、そして雲南に生きる人の切実な葛藤があって。市民の皆さんも個性派揃い。感服。」との

賞賛の声が次々とあがった。
劇中で、台本をなかなか仕上げない脚本家をキャスト・スタッフが責める場面や、家を継がずに家を出ようとする高校生の姿は、今回も市民演劇の脚本・演出をつとめた亀尾佳宏先生(三刀屋高校掛合分校勤務)の自虐ネタでもあり、本人曰く、「これまでの懺悔の思いを込めた」作品ともなつたらしい。
そして、劇中の次のセリフが印象深く心に響いた。「みんなが何とかしてくれている」そんな市民演劇が、いつまでも続いて行くに違いない。演劇を通じて人づくり、町づくりを実感する雲南市創作市民演劇だった。

雲南市演劇によるまちづくりプロジェクト実行委員会

おめでとうございます「島根県文化奨励賞」

※文化芸術の分野において積極的に創作・発表活動を続け、将来の活躍を期待できる方々に贈られる賞です
※雲南市の文化拠点施設チェリヴァホール・ラメール・アスパル・古代鉄歌謡館の管理運営にあたる第三セクター(株)キラキラ雲南にも敬意を表します。



三刀屋高校 第68回卒業証書授与式

2016.3.2



卒業証書授与



在校生代表送辞



卒業生退場

平成28年
3月2日(水)

卒業生代表答辞



勝部 聡

この3年間はとても短かったように感じます。しかし、同時にとても中身の詰まった充実した時間でもありました。この3年間で振り返ってみると、雷のせいで山に登れなかったフレッシユマンセミナーや、反省文を書いた研修旅行、青

164名の卒業生を迎えた今、みなさんが一番感謝の気持ちで伝えたいのは誰ですか。それを少し考へながら、私の話を聞いてもらいたいと思います。

3年前の春、この場所で私達は三刀屋高校の一員として温かい歓迎を受けました。あれから3年、授業の45分間はあんなに長く感じるのに、

この日があるから
担任はやめられない

春をささげた部活動など、この場では到底話しきれないほどの思い出があります。

その中でも、私が一番に残っているのは、3年生の時の三高祭です。私は生徒会長としてこの三高祭を運営していく立場でした。しかし、私の出身校である仁多中学校には学園祭がありません。数日かけて沢山の行事を行う学園祭を経験したことのない私が、生徒会長として学園祭を創っていくのか、不安がありました。

「がんばれよ、会長」と声をかけられ、自分は生徒会長としてみんなを引っ張っていくかなくてはならない存在なのだ。あらためて感じ、自分なりに一生懸命やろうと決意しました。それからというものの、毎日のように校舎中を走り回り、執行部のみんなや先生と話し合いを重ねました。学園祭シーズンに入ると、1階からは1年生のきれいな歌声が聞こえてくるようになり、2階では2年生が大きな段ボールを手に楽しそうに作業をしていました。私も同じ経験をしたなと懐かしく思うのと同じ時に、三高祭を楽しみにしているのは自分だけではないのだと気づき、みんなの頑張りや努力しようと思えました。しかし、やる気とは裏腹に、うまくいかないことも沢山ありました。その度に話し合いをして、できるだけ多くの人にスポットライトを当てられるような三高祭にしようとして行錯誤を重ねました。そうして、新たな試みもあった今年

の三高祭、スムーズな進行ができない場面も多々ありましたが、1年生、2年生、3年生のみんなの力で三高祭を成功させることができました。いつも冷静で的確な指摘をしてくださった先生方、「あなだがやりたいなら応援するよ」と、夜遅くなくても迎えに来てくれ、家では温かいご飯を準備して待っていてくれた家族、みんなに支えられていると感じました。そして、ともに三高祭を創り上げてくれた三高生のおかげで、それでも葛藤と衝突の中で、それでも一緒に目標の達成に向かって力を合わせていけたことが、私にとっての学園祭だったのだと知り、ともに頑張ったみんなへの感謝の気持ちでいっぱいになりました。不安だらけだった私でも、たくさんの人と協力することで大きな行事を成功させ、充実感を味わうことができました。大きな目標であっても、みんなが心を一つにすることがその目標の実現を可能にし、一人ひとりを自信につながるという事を、この三高祭を通して学びました。これは部活動や受験勉強でも同じことだと思えます。この3年間のさまざまな場面で人と人とのつながりの大切さを学んだ私達なら、この先どこへ行ったも力を合わせて、より素晴らしい経験ができると思えます。

最後に、はじめに言っていた、みなさんが感謝を伝えたい一人は思い浮かびましたか。友達や先生、家族など、さまざまな人が思い浮かんだと思います。私が一番感謝してい

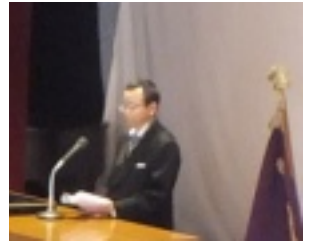
るのには、過去の私です。地元高校ではなく、三刀屋高校を選んだ私、慣れないクラスでも声をかけて、たくさんの友達を作っていた私、生徒会長をやると決めた私、そのお蔭で、今ここにいるかけがえのない仲間達とともに、最高の思い出を創ることができました。もし地元の高校へ進学していたら、それはそれで、中学校からの友達と楽しい学校生活を送っていたかもしれない。しかし、今目の前にいる仲間と出会い、生徒会長としてこの場に立つことは無かったのです。自分自身で誇らしく思える最高の経験と、思い出してくれた過去の私に感謝したいです。

私達は今日で三刀屋高校を卒業します。これからは、先生から小言を言われなくてもすみます。細かな校則を守る必要もありません。しかしそれは、自分達を守ってくれるものが無くなるということを感じます。今までよりずっと広い世界に出て、大変な事や辛いことも沢山あると思えますが、この3年間の思い出が経験に背中を押してもらいながら、一人ひとりが夢の実現に向かって進んでいけると信じています。私達を育て、仲間という宝物を与えてくれた三刀屋高校に感謝しています。ありがとうございます。

平成28年3月2日
卒業生代表 勝部 聡

(お断り：原文の漢数字を、算用数字に改めさせてもらいました)

校長式辞



弥生3月、水温む季節となり、春の光に生命の躍動を感じる季節となりました。

本日の旅立ちの日にあたり、学校後援会副会長藤井勤様はじめ、多数のご来賓のご臨席のもと、平成27年度第68回卒業証書授与式をこのように盛大に挙行できますことは、まことに喜ばしく、本校教職員を代表いたしまして、厚くお礼申しあげます。ありがとうございます。

また、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠にありがとうございます。3カ年の間、お子様の成長を願いながら、温かく見守ってこられた皆様にとって、本日のお子様の晴れ姿は感慨ひとしおのことと、心からお祝い申し上げます。

さて、先ほど卒業証書を授与しました164名の皆さん、卒業おめでとう。三刀屋高校で過ごした3年間はいかがでしたか。光陰矢のごとし。瞬く間に過ぎ去った3年間であつたと思います。泣いたこと、笑ったこと、苦しかったこと、

楽しかったこと、そのすべてを成長の糧として、今、君たちはここにいます。今、君たちも家族、友達、地域の方々の支援を受けながら、君たち自身がよく努力したからだと思われたいと思います。

さて、卒業生の皆さんに、はなむけの言葉を二つ、贈りたいと思います。

一つ目は、「学び、考え続けよう」ということです。卒業は終わりではありません。新たな始まりです。

昨年6月に国会で選挙権年齢を20歳以上から18歳以上に引き下げる改正公職選挙法が可決、成立しました。皆さんは、全員、7月に予定されている参議院選挙から選挙権を持つこととなります。過去の選挙で問題になっていたことの一つに投票率の低さがあります。平成26年12月の衆議院選挙では、平均53%でした。年代別では、一番高い60代が68%、一番低いのは、20代で33%と2倍以上の差があります。投票率が低いと若者の意向が政治に反映されにくい状況になると指摘されています。

選挙権を行使するためには、今、何が問題となっているのか、問題に対して自分はどう考えるか、など「学び、考える」ことが必要です。

現在、世界各地で宗教対立や地域紛争、テロにより、毎日多くの命が失われ、難民も

多数発生しています。また、自然環境の破壊、異常気象や大気汚染など様々な環境問題が起きています。日本でも少子・高齢化の進行、中山間地域の衰退、国の財政の悪化、貧富の格差の拡大、また、地震、集中豪雨や火山噴火による災害など様々な問題が発生しています。

日本や世界はまさに困難に満ちています。このような社会にあって、今まで君たちが小学校・中学校・高校で学んできた知識だけでは、不十分です。今まで学んできたことを礎に、「学び、考え続ける」ことが必要だと思います。様々な問題に関心をもち、時代の波の吞まれず、自分の意見をもち、判断し、主体的に生きるために、学び、考え続け、充実した人生を送ってほしいと願っています。

二つ目のはなむけの言葉は「困難があろうともしっかりと前を向いて生きていこう」ということです。今年もまた3月11日がやってきます。5年前の3月11日に東日本大震災が起こりました。震災による死者は今年の1月8日現在で、15,894名、行方不明者2,562名を数えます。大切な人を亡くし、癒されることのない悲しみとともに生きていく人々もたくさんいます。また、東京電力福島第一原子力発電所の事故により、多くの人が避難生活を余儀なくされています。

くされています。また、昨年3月11日、4周年追悼式で宮城県の大迫を代表して石巻市出身、19歳の菅原彩加さんが述べた言葉を紹介します。

君たちもこれから様々な困難が待ち受けているかもしれない。ときに挫折することもあるでしょう。失敗することもあるでしょう。でも、困難に負けず、しっかりと前を向いて生きていってほしいと思います。

くされています。また、昨年3月11日、4周年追悼式で宮城県の大迫を代表して石巻市出身、19歳の菅原彩加さんが述べた言葉を紹介します。

君たちもこれから様々な困難が待ち受けているかもしれない。ときに挫折することもあるでしょう。失敗することもあるでしょう。でも、困難に負けず、しっかりと前を向いて生きていってほしいと思います。

被災で大変な被害を受けたのにもかかわらず、東北にはたくさんの人々の笑顔があります。「皆でがんばるべし」と声を掛け合い復興へ向かって頑張る人たちがいます。日本中、世界中から東北復興のために助けの手を差し伸べてくださる人たちがいます。そんなふるさと東北の人々の姿を見ていると「私も震災に負けてないで頑張らなきゃ」という気持ちにいつもなることが出来ます。

震災で失った物はもう戻ってくることはありません。被災した方々の心から震災の悲しみが消えることも無いと思います。しかしながらこれからは得ていく物は自分の行動や気持ち次第でいくらでも増やしていける物だと私は思います。前向きに頑張って生きていくことこそが、亡くなった家族への恩返しだと思ひ、震災で失った物と同じくらい物を通して生きていけるように、しっかりと前を向いて生きていきたいと思います。

「平成27年3月11日、政府主催4周年追悼式での菅原彩加さん(19)のことば」

追悼の黙禱

卒業生のみなさん、いよいよ巣立ちの時です。三刀屋高校で学び、経験したことを礎に、社会に大きく羽ばたいていってください。卒業生の皆さんがそれぞれ選んだ道に幸多かれと祈念し、式辞を終わります。

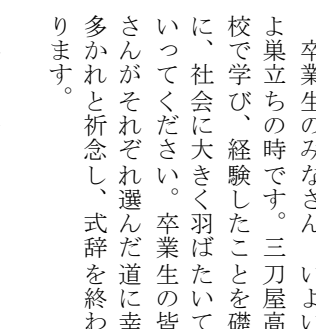
平成28年3月2日
島根県立三刀屋高等学校長
恩田 佳雄

追悼の黙禱

追悼の黙禱

追悼の黙禱

追悼の黙禱



図書館には 震災関連コーナー



追悼の黙禱

3月11日

14:46

東日本大震災から5年

恩田 佳雄



三刀屋バスセンター周辺を清掃

ボランティア委員会

いつもお世話になっています!



今月14日(月)の放課後、各クラスのボランティア委員が、学校入口の三刀屋バスセンター周辺の清掃奉仕を行った。三高生も多数がお世話になっている施設をきれいにしようと、委員会が計画したもの。高校生の通学に配慮した市民バスのダイヤ改正の予定も聞き、例年以上に気合の入ったボランティア活動となった。今後も定期的な活動が期待される。

卒業式にご臨席を賜り、ありがとうございました(来賓25名)



感謝

雲南市のご支援

PTA・雲南会の皆様にご陳情等していただきました

市民バスのダイヤ変更 & 寮費補助

卒業式での校長式辞に続き、学校後援会会長(速水雄一雲南市長)代理/藤井勤雲南副市長は来賓祝辞の中で、次の2点について、雲南市が新たに支援する予定であることを表明していただきました。

- ① 4月からの雲南市民バスのダイヤの一部を、高校生の通学利便性向上を図って変更する。
- ② 寮費の一部を補助する。

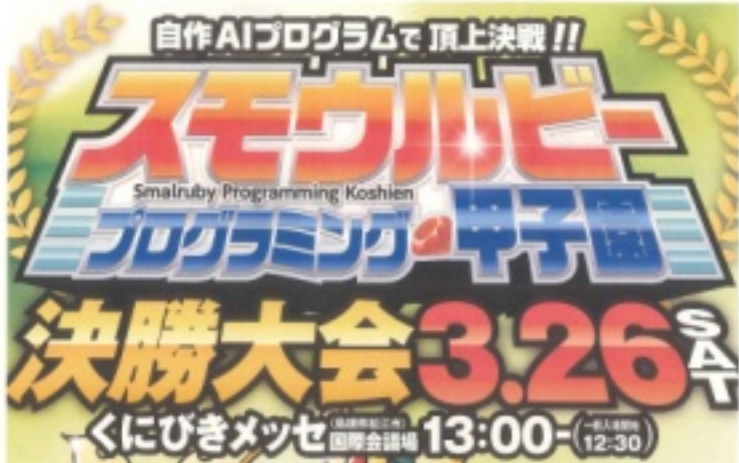
本校のキャリア教育推進は、地元雲南市とのかわり深め、地域で育てていただく三刀屋高校としての姿を大きくしてきました。物心両面にわたる雲南市の支援も厚くなり、このたびはダイヤ改正・寮費補助という御蔭を受けることとなります。

関係各位の陳情等もあり、そのご尽力に厚く御礼申し上げます。なお、平成28年度雲南市民バスの変更点(路線別)については、雲南市報3月号25面をご参照ください。

パソコン同好会

エントリーグループ名 「三刀屋高校 周藤匠」

<出場3名>
周藤匠・新田翔也・太田健斗(ともに1年)
百のグループ・個人がエントリーした予選を第2位で通過した三刀屋高校パソコン同好会3人組が、トーナメントで頂点を目指します。健闘を祈ります。
(決勝大会に出場するだけでも快挙です)



プロ棋士完敗のニュースでにわかに関心が高まってきたAI(人工知能)！
あなたも体感しませんか？

準々決勝(本校初戦) ⇒15:10頃

準決勝・決勝戦 ⇒16:30~18:00

つながろう三高
つながろう雲南

如己愛人

人生は紙飛行機

毎年、厳肅な卒業式を彩る箏曲部と吹奏楽部の演奏を楽しみにしている。



今年の卒業式のために吹奏楽部が選んだ曲は、NHK朝ドラ「あさが来た」の主題歌「365日の紙飛行機」だった▼作詞を手掛けた秋元康氏は、「紙飛行機は無理に力を入れたり考えすぎたりすると飛ばない。だけど風と友達になるように飛ばすとうまく飛んでいく。ヒロインのあさは、この紙飛行機のように屈託なく人生の空を飛んでいったのだと思います。」と歌詞の意味について語っている。歌詞の中には「その距離を競うよりどう飛んだか、どこを飛んだのか、それが一番大切」ともある▼結果的にどこに到達しようとも、向かって行ったその過程が大切ということだろうが、現実の人生においては飛行・飛躍の持続も大切だ。楽な追い風よりも、向かい風に乘って高く飛躍することが求められることが多いだろう。場合によっては、顔を背けたくなるような逆風に押し戻されそうになる時もあるだろうが、風を読み風とつながって、より高く広い大空で、どこからも見える勇姿を見せられれば最高だ。高所恐怖症の私には難しいが、高校68期生の皆さんには、今後一層の勇躍を期待したい。
(ティーン編集長)

「産業社会と人間」

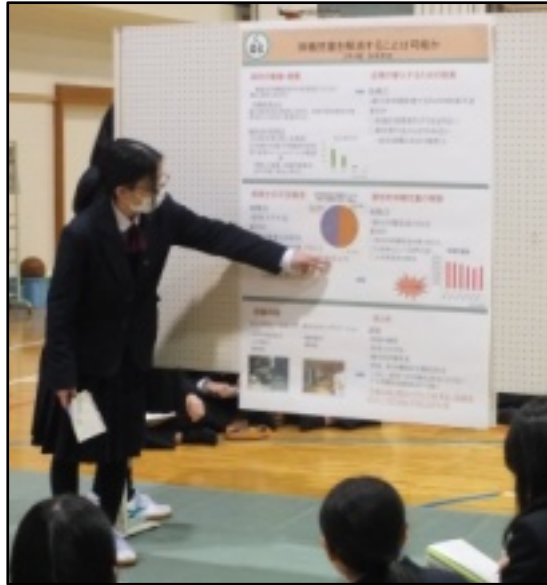
1年次の地域産業研究会のまとめも兼ね、総合学科の授業「産業社

1年

10年後の自分の姿を描きました！
ライフプラン作成

会と人間」の時間を利用し、10年後の理想の自分になるために、今、大切にすべきこと、

取り組むべきことは何かを考
えながらライフプランをレポ
ト(A4判1枚)にまとめ、
クラスごとに冊子にした。



<発表事例>

「待機児童を解消することは可能か」
加本奈央(2年)

横浜市が待機児童ゼロを達成したというニュースから関心を持ったものの、実際にはカウントされない「潜在待機児童」が多いこと、他業種に比べて平均給与が10万円以上も少ないため「潜在保育士」が多い実態を紹介。認可保育園を新設するための財源不足や新規参入が難しい理由も報告。問題解決は困難だが、(人工知能の発達もあって)将来多くの職種で自動化が進んでも、保育を自動化することはできない。待機児童解消のために保育園・保育士を確保することが緊急の課題と訴えた。



今年は1年生も発表を見学

2年

学習への意識を高めた1年間
課題研究/ポスターセッション

「課題研究」に取り組んできた2年生が、研究成果をポスターにまとめて説明する発表会を今月15日に行った。昨年が続く2回目の試み。
2学期には東京研修直後にパワーポイントでの発表会を行ったが、これに修正を加えた上で、今回は各クラス7名、

計35名のポスターを体育館のパネルに掲示し、1・2年生全員が興味あるテーマのポスターの前で、発表者の説明に聞き入った。
発表3分、質疑応答3分を順次繰り返し、聞く側は計9名の発表を聞く形をとった。発表者の多くは、「何回も事前に練習したが、5分はあっという間だった。要点を絞つ

て説明することの難しさが分かった。」と感想を述べ、相手に分かりやすく伝える表現力を身に付ける練習の場にもなったようだ。
昨年は自分の進路志望に沿うテーマ設定だったが、今年

度は進路志望に直接かわらずとも、興味関心のあるテーマを設定したため、分野が多岐にわたった。以下に、研究テーマの一部を紹介する。
◇◇◇◇◇
▽電子書籍は紙の小説を脅かすのか▽たたら鉄の特徴▽地方と都市部の環境配慮への取り組みの違い▽「スーパーコンピュータ」東京証券取引

所▽ユーロ危機は日本に影響を及ぼすか▽宇宙太陽光発電▽なぜチャイルドソルジャーが発展途上国で問題になり、その数が減らないのか▽出生前診断は本当に必要なのか▽ナノテクノロジーは生活に良い影響を与えるのか▽外国語教育はなぜ必要なのか▽恥の文化を批判と受け止めるべきか▽訪問美容の必要性

絵本との出会い

「おはなしレストラン」から学びました
「図書館がっなく学びの輪」

講師/岩田 英作氏(島根県立大学短期大学部教授)

2月23日の午後、島根県立大学松江キャンパス(短期大学部)の岩田英作教授と本校

卒業生2名をお招きし、総合化学科をはじめキャンパス全体で取り組む「おはなしレストラン」の取り組みについて紹介していただいた。



会場の本校図書館には試験最終日の放課後にもかかわらず、1・2年生から25名、校外から1名、本校職員が参加し、島根県立大学松江キャンパスの紹介、共通科目「読み聞かせ」の取り組み、「おはなしレストラン」にかかわった学生や子どもた

島根県立大学短期大学部が取り組む「おはなしレストラン」

▼おはなしレストランは、絵本の読み聞かせを通して、学生の総合的な人間力を養成します。
▼おはなしレストランは、子どもたちにおはなしの素晴らしさを伝え、豊かな想像力と生きる希望の種をまきます。
▼おはなしレストランは、読み聞かせやライブラリーでの活動を通して、子どもと大人のかげ橋、地域と大学のかげ橋となります。

ちの「学びの育ち」についてお話していただいた。
この企画は今年度で4回目となったが、今回はキャリア教育の要素を取り入れ、高校時代や短大に入ってから就職するまでの卒業生の体験談を聞く時間も設け、就職試験の際には高校3年次に受けた面接指導のノートが役に立ったというエピソード等も聞くことができました。

つながろう三高 つながろう雲南

↓ご来場ありがとうございました



↑吹奏楽部定期演奏会にご来場いただき、ありがとうございました。当日の様子は、次号でご報告させていただきます。

↓ご期待ください!

雲南市桜まつり2016

3/21(月)~4/21(木)

メインイベントは 4/2(土)、3(日)

吹奏楽

今年もJR木次駅前
で演奏します

4/2(土)

※三高吹奏楽部の演奏開始は12:30頃
(多少前後することもあります)



昨年の桜祭り特設ステージで

箏曲

チェリヴァホール

木次町
文化協会
芸能発表会

4/10(日)



昨年は「雲南ひのくら会」の皆さんとともに出演



中学生バスケットボール交歓大会

2 第5回三高カップ

8校130名が参加

本校バスケットボール部が主催し、今年で5回目を迎えた標記交歓大会には、雲南市内を中心に8校130名の中学生が参加し、三刀屋文化体育館アスパルで熱戦を展開した。最後は優勝した出雲第一中学校と三刀屋高校の対戦も

組まれた(写真上)。

【三高カップとは?】

昭和40年代から50年代にかけて、三刀屋高校バスケット部OB会の主催で年2回の大会を開催していたが、その後中断。平成19年に雲南市内の

中学校の交歓大会が始まると、平成24年に「第1回三高カップ」として新たにスタートした。会場を三刀屋文化体育館アスパルとして、公式大会ではなく交歓大会として雲南地

区中学生を中心にバスケットボール競技のレベルアップと親睦、および三刀屋高校の紹介を目的として開催している。現在の優勝トロフィーはOB会の寄贈によるもの。

「高校入学後に競技を始めた選手も多いのですが、練習が一生懸命で良かった。」とお褒めの言葉をいただきました。



チャレンジ 中学・高校・プロ

1 bjリーグ公式戦をお手伝いしました

島根スサノオVS大分・愛媛
バスケットボールbjリーグの島根スサノオマジック対大分・愛媛ビートデビルズの公式戦が先月27日(土)、三刀屋文化体育館アスパルで開催さ

れ、本校の男女バスケットボール部員33名が大会運営をお手伝いした。
入場口でのチケットのもしぎりや販売・警備、試合が始まるとモップでコート拭き……。

3 プロ選手が来校して実技指導



中央左がスサノオの曳野選手

朝10時から撤収作業まで大変な作業量となったが、一人何役もこなしながら皆で手際よく仕事をこなして試合運営を支えた。
試合は87対69で島根が圧勝

し、その後も快進撃を続けるスサノオマジックは、すでにプレーオフ進出を決めている。



3月15日(火)の放課後、男子バスケットボール部監督の細木教諭とかわらぬ

長身のイケメンが体育館に登場。島根スサノオマジックでキャプテン経歴も長い曳野康久選手(松江北高OB)だった。地域貢献事業としてバスケットボール部の指導のために来校し、修正点も指摘していただいた。

さんこう 三高91年物語



第22回 終戦前後の汽車通学 (三刀屋高校「五十年史」より転載)

戦中から戦後にかけての極度の物資不足は、本校生の通学にも大きな影響を与えた。これは、特に自転車通学の場合に甚だしかった。継ぎはぎだらけのタイヤやチューブは、しばしばパンクしては生徒を困らせた。自転車通学生は三刀屋町旭町の自転車店をよく利用したが、ここでは「空気入れ」も貴重品扱いで、一回の使用料が一銭(昭和19年頃)だった。それでも、まだ自転車で乗れるうちは良かった。やがて、自転車通学の多くは汽車通学、バス通学に変わった。

昭和22年の通学状況をみると、次のようである。自転車通学の激減しているこ

とが知れる。

徒歩	208名
自転車	26名
汽車	140名
寮舎	41名
下宿	22名
計	437名

汽車通学も大変に困難だった。運転回数減った汽車に乗客が殺到し、客車はいつも超満員、乗れない者は機関車の炭車に乗ったり、デッキにぶらさがった。客車のない時は、貨車で通学する毎日だった。

〔汽車通学の記憶〕
終戦当時、貨車で通学したことが思い出に残っている。特に家畜車でフンの臭いのブンブンするのに、藤原成章先生と一緒に通ったことが懐かしい。それでも大東の女

学生と一緒にいる時には、せめてもの慰めだった。木炭機関車で、下久野トンネルを上げらさずバックしたことなど、今から思うと大変懐かしい。
(中学21期・高校2期卒、S氏)

↓4月2日、3日には汽笛を鳴らす一般公開も



蒸気機関車C56-108は、昭和12年から主に木次線を走り続け、引退後の昭和49年に現在の木次体育館横の機関車展示場に保存されました。2011年の解体撤去の危機を乗り越え、今も雄姿を見ることができます。

※C56-108の現役時代
1937-8月：三菱重工神戸造船所製
1941-3月：木次区へ 1972-3月：浜田区へ
1974-7月：廃車

そう言えば、2年生の中にはマルチな活動で光る皆さんが目立つ。少林寺拳法と美術・工芸部門の両全国大会に出場する門脇宥紀菜さん。吹奏楽部の活動を続けながら書道部門の全国大会に出場した妹尾有真さん。美術、華道、茶道の三つの部を兼部する文化部の鉄人上田千浩さん。「好きこそものの上手なれ」で、ひたむきに取り組む姿が印象的な三高生だ。

4月後半、5月の行事予定は次号に掲載します。

日	曜	学校行事等	部活等
1	金		
2	土		
3	日		
4	月		
5	火		
6	水		
7	木		
8	金	新任式 始業式 報告会	
9	土	入学式 対面式 入寮式	
10	日		
11	月	4月9日の代休日	
12	火	新入生刈エントーション 部活動紹介 課題テスト	前期生徒会役員選挙告示
13	水	1年内科検診(27分) 6限授業	
14	木	尿検査	
15	金	1年内科検診(37分)	



ポスター完成しました 〔全国総体ボート競技:地元開催PR〕

ボート競技には全国から監督・選手約1,100名が来県します
ご協力をよろしくお願ひします



ポスター原画 ↑ 高野寛子 (三刀屋高校2年)

↓ 第27回島根県読書感想画コンクール 優良賞

三高のマルチな活動家たち

ここに紹介した総体ポスターと読書感想画を描いた高野寛子さん(2年)の名を、本紙で紹介する機会が多い。中学時代に愛鳥週間用ポスター図案コンクールで全国入選を果たした経歴を持ち、高校でも美術部での熱心な活動を続ける一方、華道部員として生けた花を校内各所に飾り、さらには、今号1面に紹介した雲南市民演劇にはお母さんとともに舞台に立つなど、そのバイタリテイ溢れる姿が注目される。



対象図書『チェリー』
野中ともそ 著 ポプラ社

家庭科(2年フードデザイン)



「長命寺」を作った。クレプのお餅で餡を包んだような馴染みある桜餅(写真)の出来栄に、生徒も満足気。翌週は関西風の、もち米をまとった様なツブツブ感ある桜餅「道明寺」にも挑戦した。

書道

第49回島根県書初め展

島根県学校生活協同組合と島根県書写書道教育研究会が主催する標記書初め展は今年度で49回目。高校の部には県内24校から出品され、計78

書道作品「土手日月之上包 糸天地之外 有喜」

8点の中から5点の特選の一つに、書道部の妹尾有真さん(2年)の作品が選ばれた。特選に選ばれた妹尾さんの作品は、7月に松江市のプラ

追伸 雲南市民演劇の取り組みが道徳教育郷土資料に



来年度中学校用「しまねの道徳」

(1面参照) 雲南市民演劇の取り組みが道徳教育郷土資料に

プロテニスプレーヤーの錦織圭選手のメッセージも載ることで話題となったのが、平成28年度から島根県内中学校の道徳の授業などで活用される「しまねの道徳」。

郷土の先人を紹介する頁も多く、雲南市出身の永井隆博士と、その人生を題材に雲南市民演劇「AKASHI」が創作された事についても触れられている。また、本紙1月発行第103号でも紹介した加納莞菴についても取り上げ、大人が読んでも興味深い。

錦織良成監督映画『たたら侍』を勝手に応援するシリーズ

雲南市木次町里方の雲南市役所前に掲出されたPR懸垂幕

斐伊川今昔物語 第19回 日本遺産登録めざす鉄の道文化圏

〈本シリーズを振り返って〉

昨年正月にスタートした山陰中央新報紙上の「鉄のまほろば」が今月14日、50回でシリーズを終えた。その間、たたら製鉄のすそ野の広い世界を伝え、読者の一人として私も勉強させていただいた。

今回は、たたら遺産をとりまく現状を簡単に振り返り、今後のシリーズに続けたい。

世界の通常の鉱山開発は自然破壊につながったが、たたら製鉄の原料である砂鉄を採取するための「鉄穴流し」は、結果的に跡地を耕地(棚田)として再開発した稀有な例であり、世界に誇る自然リサイクル例と言える。奥出雲町が申請した「奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観」は、2年前の3月に国の重要文化的景観に選定され、たたら製鉄や鉄穴流しの歴史に興味のなかった一般の方々にも、鉄穴流しが遺した何気ない古里の里山景観を見直す機運を高め

ることとなった。また、昨年に続いて国が募集した「日本遺産」の第2弾認定に向け、雲南市・奥出雲町・安来市の3市町で構成する鉄の道文化圏推進協議会が動き出した。同協議会は2月に認定申請書を文化庁に提出し、歴史や観光などの専門委員会での審議を経て、4月中旬に約20件が認定発表される。昨年の第1弾には40都府県から83件の応募があり、24府県の18件が認定されている。現在は結果待ちの段階だが、錦織良成監督の映画『たたら侍』の制作に各市町が結束して支援を固めたように、古里の里山景観にも共通の遺産価値を認め、県境を越えた市町

めざせ!! 日本遺産認定 『出雲國の宝・たたら製鉄』 鉄の道文化圏推進協議会 「安来市・奥出雲町・雲南市」

村の今後一層の連携にも期待したい。正直、まだまだ市民全体の関心事とはなっていない。微力ながら、今後の啓発活動に本紙も協力したい。

〈本シリーズは隔月掲載〉

菅谷高殿 桂の木の芽吹き 今年はお見逃しなく!



雲南市吉田町の菅谷高殿と桂の木

たたら場を守る桂の木は、春先の3日間だけ真赤に芽吹きます。まるで炎が燃えているようです。ただし、たたら炎と同じように3日間だけの姿です。雲南市吉田町菅谷高殿の前の桂の木の場合、昨年は3月30日が見頃でしたが、天候によつて前後します。ご注意を!

編集後記

今号の原稿は3月16日としたため、その後の吹奏楽部定期演奏会&文化部合同展、男女ソフトボール全国選抜大会の結果、教職員員の年度末人事異動等につきましては、4月発行予定の次号で報告させていただきます。雲南市桜まつりでの三高生の動きもあわせて紹介できることと思います。(編集長記)